ふくろうの筆メール
表面・裏面 4ページ版
99号
2011年(平成23年)
弥生・卯月(3月・4月)
芽吹きの春号

この度の東日本大震災で被災された方々、そして、
無念にも亡くなられた方々に、謹んで哀悼の意を表します。

又、避難され、不自由な暮らしをされている多くの方々にも、
心より お見舞いを申し上げます。

自衛隊や消防・警察、アメリカ軍や海外救助隊、原発事故処理…
そして、後方支援にあたられる多くの方々の献身的な活動。

大切な家族がありながらも、その「使命感」には、
本当に、本当に頭が下がります。

連帯の和と、復興への意気込みが、「日本」各地に広がっています。

小岩井農場から観る「岩手山と一本桜」

「朝の来ない夜はない。」美しい国、日本の力を信じています。

北上発 ワクワク情報

石彫「ふくろう」
渡辺 尋志 作
1959年 福島県生
東京造形大学彫刻科 卒業
新制作協会会員
日本美術家連盟会員 横浜在住
(注文創作 お取次致します。)

■私たちが、体験したあの揺れは、東日本沿岸部に巨大津波として押し寄せ、夥しい爪痕を残しました。

■震災後、来店される方々より、沿岸部に住んでおられる親戚、友人、知り合いのそれぞれの安否に関わる状況が、生の声で伝わり、内陸部の私たちとすぐ隣り合わせの街ゆえに繋がりも深い事が判り、胸を痛めています。

津波の威力。

■私事ですが、次女の連れの実家はあの沿岸の田野畑村です。何度か足を運んだ事があるので様子が目に浮びます。地震の後、カーラジオから流れる耳を疑うような津波の高さに「みんな早く逃げて欲しい」と願うばかりでした。

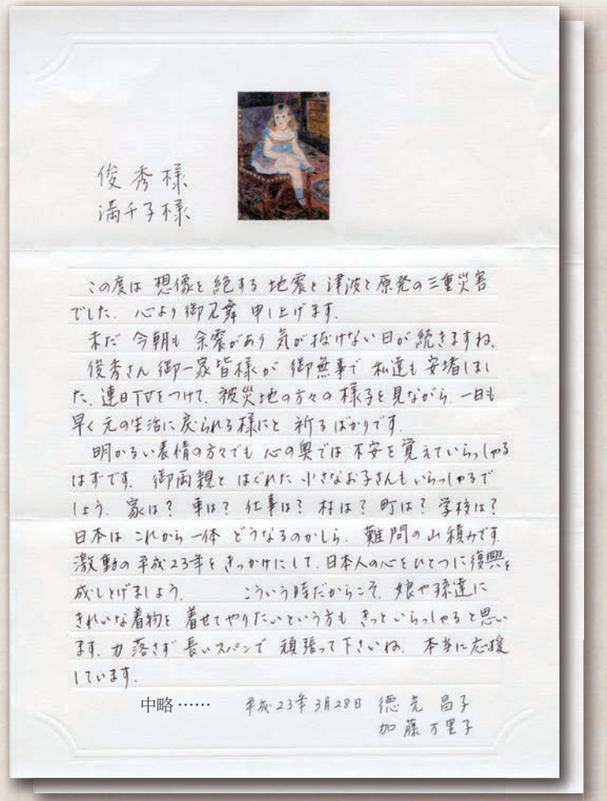
その後、家族は何とか無事との報が届き一同胸を撫で下ろしたのですが、自宅は全て流出して跡形もなく、今、家族は避難所暮らしです。

■居ても立っても居られず、ガソリン行列の2回目、何のその!!、沿岸への道路が通じた12日目、多分必要だと思われる物資を積んで行って来ました。待ち合わせた避難所から車で10分位下りたところに浜があるのですが、浜に着く前に注ぎ込む川への津波の逆流の爪痕から始まり、その惨状は、日々放映されている映像の通りでした。

案内された自宅跡地は基礎が残るのみ…私たちは掛ける言葉さえ見付かりませんでした。幸い家族は別の場所に居て命拾いしたものの、もし家に居たら津波からは逃げられなかったのではとの回想です。

震災の翌日、あまりにも悲惨な出来事に 希望を見失いそうで、思わず外に出てみました。庭の片隅、残雪の間から、可憐な花を咲かせている「福寿草」を見つけました。

数ヶ月前、勇之介君が里帰りした場所だった自宅跡地です。
数多くの想い出が一瞬のうちに浚われてしまいました。
ここが次女の連れ「学君」の育ったふるさとだと思うと・・・。
学君の父親の説明を聴く…。



俊秀様
満千子様

この度は 想像を絶する地震と津波と原発の三重災害でした。心より御見舞申し上げます。
未だ 今朝も余震があり気が抜けない日が続きますね。
俊秀さん御一家皆様が御無事で 私達も安堵致しました。連日下でもつけて、被災地の方々の様子を見ながら、一日も早く元の生活に戻られる様にと 祈るばかりです。
明かるい表情の方々でも 心の奥では不安を覚えていらっしゃるはずです。御両親とはぐれた小さなお子さんもいらっしゃるでしょう。家は? 車は? 仕事は? 社は? 町は? 学校は? 日本はこれから一体 どうなるのかしら。難問の山積みです。激動の平成23年をきっかけにして、日本人の心をひとつに復興を成しとげましょう。 こういう時だからこそ、娘や孫達にきれいな着物を着せてやりたいという方もきっといらっしゃると思います。力落さず長いスパンで頑張って下さいね。本当に応援しています。
中略……
平成23年3月28日 徳光昌子
加藤万里子

先日、軽井沢に住む私の従姉妹から、その妹との連名で封書が届きました。その中の数行に、復興を願う気持ちと、私共の家業である呉服、その役割までもが綴られ、涙が出るほど感動しました。
ふくろうの筆メールだけの繋がりだけなのに、逢いたくなりました。
数十年ぶりに・・。ふくろうの筆メールは離れていても、気持ちを繋げてくれています。

原点回帰。

■震災から一週間後、店を案じてくれた年配のお客様から、電話を頂戴しました。『こんな時こそ、全て原点に戻ればどうにかなる』という"原点回帰"のお考えでした。戦前、戦後の困難な時代を生き抜いて来られた方の言葉には、どこか重みを感じます。

■当店は、ふくろうの筆メールと共にお客様と価値を共有したく情報を発信しています。私共は、本当に恵まれています。商いという関係を超えて、家族、仲間、ファンとして愛情を持って接していただいているようにと日々感じています。

■こんな我儘な店を可愛がってくれる多くのお客様を始め取引先、地元の仕立屋さん、そして内側から支えてくれているスタッフ、家族 関わるすべての方々に、この場をお借りして"ありがとうございます。"とお礼を申し上げます。(「きもの」が必ず、日本の元気を表現してくれる推進力のひとつになってくれる日が訪れることを信じて……)

「朝の来ない夜はない。」そう信じて今日も店に立ちます。

■戦後、最大の国難とも言うべき非常事態に遭遇した、現在の日本、私たち大人が今、心をひとつにして、この国をきちんと見守り、道筋を作って行く使命があります。

美しい国、日本の力を信じています。

文責 きものや
店主 川内俊秀

春の息吹
ピンクのイワウチワ

瑞瑞しい スイセンの芽吹き

季節は巡り、こうして
生命の息吹は力強く、
私たちに「希望」を
抱かせてくれます。

可憐な白い妖精 イワウチワ

生まれたばかりのオキナグサ

羽化を終えたクロアゲハ

注 裏面もあります。

想い出の きもの が甦る。
当店では「きものと帯 復元」を行っています。

津波被害を受けた方々より 多くの品々の ご相談が寄せられています。大切な きもの類、諦めないで当店へ ご持参いただくか 又は ご発送下さい。

花亀甲 鳥の丸　小華文　綾格子

桐唐草　散花文　小牡丹 唐草

東寺 牡丹文

無地の きもの にも バッチリです。ぜひ、お気に入りを！

有職織物（ゆうそくおりもの）

喜多川 俵二の父〝故平郎（ふいろう）〟は、「羅（ら）」と「有職織物」で重要無形文化財指導保持者（人間国宝）でした。その背中を見て 俵二氏は 仕事と取り組んでいました。

〝喜多川 俵二（きたがわ ひょうじ）〟の帯

歴史ある家業を継承して…。

「喜多川の帯」といえば、きもの通なら、一本は いつか持ちたいと思う 上品な帯として 知られています。

この帯には、長い歴史的な背景があり、天皇・皇后両陛下をはじめ、皇族がお召しになる御装束の裂は、ほとんど、喜多川家で調製されたものです。喜多川俵二氏は「俵屋・喜多川」の現当主。西陣で五百年もの歴史を持つ織屋で、江戸時代以来、有職織物を代々、織り続けています。

あなたは、どの帯がお好きですか？

日本一の特別価格です。ぜひ、お問い合わせを！

七宝 華菱文　軟錦 管形

ようやく、夢叶（かな）う…。

「きものや」は永年、「喜多川の帯」を造詣が深い皆様に、お好みに合わせてお勧めしたいと思っておりました。ようやく、夢が叶いました。

故 平郎氏は、有職織物をひとりでも多くの人に知ってもらい、身につけてもらう為、「帯に織る」試みを始めました。格調ある手機（てばた）でしか表せない織物の良さを、機械を併用し織るという制作に俵二氏は成功しました。どこか趣（おもむき）が違います。掲載の品物は名古屋帯ですが別織で「袋帯」へも変更可能です。

当然のことながら、超下手な字は PCにて、打ち直しました。

店主の孫々情報

「あかね」明香音＆
「わかな」和香菜＆
「ゆうのすけ」勇之介＆
「はな」華花
便り

ゆうのすけ（1歳 11ヶ月）

川内 勇之介

ゆうのすけ
今年の1月、田野畑村に父子里帰りした時の写真。右は、実家近くの線路（東日本大震災の津波で流される前の場所）で撮りました。左は、おばあちゃんと 台所で楽しそうに ツーショット。踏み台に乗ってお片付け…。今となっては 大切な 想い出…。

はな（7ヶ月）

平　華花

わかな（3歳11ヶ月）

大畠 和香菜

あかね（7歳4ヶ月）

大畠 明香音

はな「初節句」。やはり女の子、産着を着せたらこの表情。きもの 好きなんだね。

わかな「ひょうきん娘」。北上に来ると、笑いが絶えません。すべての笑い総ナメ！

あかね「うれしい絵はがき」届きました。前歯が2本抜けた…ちょっとずつ 大人。

㊟表面もあります。

「きものや店主」の
高知に住む 世紀の悪友
「浜口」より届いた メッセージ。

なあ川内。 俺やお前の文章など
この子の数行には全くかなわないな。
俺はこれを読んで色々思った。
簡単に言えば、 日本人の奥底にある
「着物への愛着」。
「ひもたれてるよ」で、この子の母親世代が
どれ程、 着物から遠ざかっているかも判る。
最後の「けど、 とってもうれしい」は
着物稼業なら ちょっとした「涙もの」だぜ。
この子も、20だな。
きっといい子に育っているだろう？
「フクロウ」ものだぜ。
じゃあな。

きもの

旭東小2年　山崎あやさん

お母さんが、お正月に
きものをだしてくれた。
かみをパーマにして、きものをきた。
かがみの前で
「ちょうかわいい。」
と、思わずいったよ。
かがみの前でくるくるまわった。
車にのる時、お母さんが
「あー、おそではさんだ。」
と、さけんだ。
じんじゃのかいだんで、おばさんが
「ひもたれてるよ。」
と、おしえてくれた。
きものは、たいへん。
けど、とってもうれしい。

高知県こども詩集
―第22集（1998年）より―

「2011年1月13日付 高知新聞」の切り抜きを 浜口が 勝手に FAXで 送信してきた！

本来、きものには、色々な決まり事を重視しながら伝承され、今日に至っています。しかし、私達の暮らす環境やライフスタイルは大きく変化して、昔の流儀だけに固執しなくても許される範囲、ルールを知った上で、つまり、敢えて「崩すこと」も、現代社会に生きる私たちに必要ではないでしょうか。

季節ごとの一般的なルールの確認。

きものに裏地をつけた袷（あわせ）は、十月から五月まで。
そして六月の初夏、九月の初秋は裏地のない単衣（ひとえ）。
七月、八月の盛夏は表地が薄物となります。

夢実現の第一歩。「きものや」の積立型きもの購入プラン「友の会」、はじめませんか？

ご来店、もしくは お電話にて お問い合わせ下さい。

＜ お呼ばれ義・正装着・ソシアル着編 ＞

〈新提言〉袷（あわせ）とファジー単衣（ひとえ）の

きもの二揃えで一年を通す。

B 単衣（ひとえ） 夏季4ヶ月対応 訪問着

A 袷（あわせ）、訪問着

きものの しきたりは、幸い、お茶の文化の中で熟成し 守られて参りました。
季節の変化を楽しみ、ある程度の決まり事を守る層と、ワードローブ（持ち衣装）を少なめにシンプルに まとめる層の二極化が 今後、進んでいくと思われます。

本号は、後者の「シンプル層」に向けに、最短コースで、後悔しない**「きものワードローブ計画」**を 提案します。

A 1枚目は、先ず 袷（あわせ）を！
（一年12ヶ月中、8ヶ月は対応できます）

●秋冬春と、どの季節にも違和感のないきもの選びを!! ●地色の色目で秋をイメージする。例えば、茶系ではなくグレー系やオールマイティな淡い色目で!! ●八掛の色目は表地と共色へ!! ●二枚目の夏季用を求めるまでは、6月、9月もこの袷（あわせ）で、袋帯も小物たちも冬用で、そのまま許してもらいましょう。

B 2枚目は、夏季4ヶ月の単衣（ひとえ）を！
（きものやオリジナル）
（この薄手の単衣で、盛夏も対応します）

●柄のモチーフは、夏季から初秋柄を!! ●地色は、涼感さえ保たれれば、全てお好みで選びましょう。（誂えも行っています。）●帯は、夏袋帯がベストですが単衣帯（ひとえおび）として貴重な薄手の袋帯でも許されます。●長じゅばん、小物は全て夏用にします。

「きものや」は、永年をかけて品揃えを充実させて参りました。
又、誂え 創作も自由に出来ます。
――何なりとご相談下さい。

＜キクザキイチゲの群生＞
……裏のおばちゃんち にて

〈枯葉を突き抜けて花を咲かせたクロッカス〉
……雑貨屋の庭先にて

〈残雪の中からすくすく育ったクリスマスローズ〉
……雑貨屋の庭先にて

〈ようやく花を咲かせたトサミズキ〉
……自宅の庭先にて

〈一例〉……
A 丸巻訪問着オリジナル 裾ボカシ「松風」共八掛付 2800000円（税別）
B 夏季4ヶ月対応訪問着「花の丸」鼠地 表地のみ 2500000円（税別）